漁業経済学会 短 信

第40回漁業経済学会大会 に参加して

三重大学大学院 植松英男

私が漁業経済学会に参加するのは、今回の第40回大会が二度目になる。前回の大会では、あまりの勉強不足ゆえ、内容についてゆくのが精一杯だった。そうした反省から、出来るだけ自分のテーマのみに捕らわれず、ある程度幅のある勉強をするように心がけてきたが、未だ勉強不足を痛感している。しかし、今回の大会は、私が特に関心を持っている内容が多く、非常に興味深く聞くことができた。今回大会印象記を書かせて頂くことになりたいへん恐縮し

ているが、私なりに強く印象に残ったことを述べさせて頂きたい。

一般報告に関しては、今回に限ったことではないが、テーマが多方面に渡っていることに驚かされた。国際化の進展、環境・資源問題への世界的な関心の高まり、また、国内においては海面利用の高度化など漁業を取り巻く環境の変化は近年特に著しく、そうした状況を考えれば当然のことと言えるかも知れない。今回の報告においても、これまでの状況とは異なった新たな動きを指摘するものが、いくつか見られた。中でも印象に残ったのは、大塚秀雄氏（農林中金）が報告の中で述べておられたが、水産物輸入においてこれまで脅威とされてきた中国、東南アジアの国々で、自国消費の拡大から一部に輸入圧力の低下している品目が見られるという点である。大塚氏は、この点を国内産養殖品の価格回復傾向の要因の一つとして挙げておられた。このことは、決してこれらの国々が脅威でなくなったことを言うものではないが、今後の水産物輸入を考

目 次

第40回漁業経済学会大会に参加して……………	1
職場紹介……………	3
大阪府漁業史の編纂についてのお願ひ……………	3
第40回漁業経済学会大会報告……………	4
在京理事会報告……………	6
事務局からのお知らせ……………	7

える場合には、こうした点も考えに入れる必要があると思った。

40周年記念講演では、高山隆三、志村賢男、八木庸夫等の先生方が、それぞれの視点から漁業の現状における諸問題、今後の展望について講演された。高山先生（「自然諸力とその評価」）は、市場経済原理と環境原理との矛盾が顕在化してきている今日の状況を「環境の貧しさからの解放」、「絶対的貧困化過程」という言葉で表現され、私には強く印象に残った。自然諸力を経済的にどのように評価すべきか、生産・開発にともなう費用をいかにして資本主義生産に組み込むかという視点は、今後の生産力のあり方を考える際に必要であり、具体的にはこれをどのような形で制度化してゆくのかが今後の課題である。志村先生（「80年代の経済転換と漁業再編」）は、円高局面を中心とする80年代の漁業について、他産業に比較して差別化投資が進まず、付加価値型産業への脱皮を図ることができなかったと評価された。新たな経済展開の下での再編方向については、付加価値問題の克服、またそれを個別にではなく共同化の絶えざる指向の下で進められるべきであると述べられた。志村先生の言われる付加価値型産業への脱皮という問題は業界全体に言えることであるが、特に生産者サイドに限ってみれば、この問題は流通対応、商品化対応など生産者が生産者に留まらない積極的な対応ということが出来ると思う。こうした対応力を持ち得る地域と持ち得ない地域との格差は、今後ますます明確になってゆくのではないかと思う。一方、八木先生（「漁業の将来について」）は、漁業という産業の特質と資本主義生産様式の間で絶えず生じてくる矛盾についていくつかの指摘をされた上で、非資本主義的性格を有する漁業共同体の必要性について、愛媛県遊子漁協の「浜憲法」、長崎県高島漁協のマダイ養殖業のシステム化等の事例を交えて報告された。資源問題や経営問題に対する個別の対応が極めて困難な今日の状況において、漁協を中心とし

た集団対応を抜きにして漁業の存続を考えることは出来ない。そうした意味からも、以上の事例が示している地域対応力がどのような条件の下で作られ出されるのか、また、今後も存続し得るのかについて、検討を重ねてゆくことが必要であると思う。

今回のシンポジウムのテーマ「漁村労働力の存在形態—過剰人口の再検討」は、私が楽しみにしていたテーマである。私は昨年4月に三重大学大学院に進学し、まず最初に労働力問題に興味を持った。そしてその変遷をたどる中で最初に学んだのが、漁村における「過剰人口問題」である。今回報告された5名の先生方は、現代の労働力問題に対して様々なアプローチで取り組んでおられ、報告後の討論も含めると実に多くの先生方の考え方に触れることが出来た。特に印象に残ったのは、島秀典先生が報告された「若年就業者の漁業就業選択」である。報告の中で島先生は、従来とは異なった職業選択の意識を持つ若年就業者について述べておられた。報告で述べておられた就業形態がどれほど一般化出来るものなのかどうかは、今後の調査を待たなければならないが、私自身こうした就業者と同世代の人間として感じることは、職業そのものの持つ意味が従来とは異なってきていることである。最近の特に若い世代に見られる職業選択の傾向として、「業種にこだわらない」、「所得水準、家業の継承といった経済的、社会的条件を基準に選択するというよりは、個人的な興味やイメージによって選択する」といった点が挙げられる。この点が従来の方法による労働力把握を困難にしている側面は、少なからずあると思う。加えて、就業形態をとらえる際には、その地域が持っている客観的条件（例えば自然力、歴史的につくり出される漁業の構造、漁場利用秩序など）との関係を考えることが重要であると思う。例えば、後継者の就業選択について、いくつかの漁村を比較した場合、同様な漁業種類、制度的条件、水揚げ金額を呈しているにも関わらず、一方の漁村には後継者が残っているのに、

もう一方の漁村にはほとんど残っていないという状況がしばしば見られる。このような地域差が何に基づいているのかということも含めて、地域特性を把握する

ための方法論を検討することが重要であると思う。

〈 会 員 動 向 〉 「 職 場 紹 介 」

参議院農林水産委員会調査室 秋本達徳

私どもの職場は名称が農林水産省に似ているためか、「出先機関ですか。」と聞かれることがよくあります。そんなときは、「立法府である参議院の事務局の中の一部署です。行政府に属する農林水産省とは、全く別の組織です。」と、中学校か高校の教科書よろしく、三権分立にまで遡って説明することになっています。

ところで、戦後の国会では、委員会中心主義がとられています。議案は、例えば、農林水産関係法案であれば農林水産委員会に、予算案であれば予算委員会に、といった具合に、まず各担当委員会に付託され、そこで実質的な審査を行った後、本会議で議決するのを原則としています。調査室は、このような委員会の活動を、専門的な知識で補佐する機関として設置されたものです。

調査室の業務は多岐にわたりますが、当調査室の場合、大きな比重を占めているのは、付託法案に関する参考資料を、議員用として作成する事です。この資料は、法案について、その概要、提出の背景、論点等を整理したものです。なお、委員会での質問を予定している議員のために、法案についてのレクチャー、関係資料の収集なども行います。

委員会では、法案の審査だけでなく国政調査活動として、その時々の問題、例えば、米価問題、日ソ漁業問題などについて、質疑が行われることもあります。これを一般調査と呼んでいますが、その際も、質問予定議員から求められると、関係資料の収集などの手助けをします。さらに、委員会の有無に関係なく、随時議員からの求めに応じて調査を行っています。依頼される調査の内容は、多種多様で、農林水産全般に渡っており、電話で即答を求められることも多く、気が抜けません。

水産問題が、農林水産委員会において脚光を浴びたのは、200海里問題で揺れた昭和50年代でした。当時は、水産関係法案が数多く提出され、一般調査でも水産問題が頻繁に取り上げられて、熱のこもった論戦が繰り広げられたものでした。その後は、以前ほどの活気がなくなりましたが、今年開かれた第126回国会では、水産関係法案が4本も提出されたことから、久しぶりに水産問題について、活発な論戦が展開されました。

〈 会 員 動 向 〉 大 阪 府 漁 業 史 の 編 さ ん に つ い て の お 願 い

大阪府漁業史編さん協議会 相沢 昂

漁業経済学会が創設40周年を迎えた今年から大阪府では、府水産課が府下水産関係団体の協力を得て『大阪府漁業史』の編さんを始めることになりました。

大阪府の漁業はどっこい生きています。約1,500人の漁業者が中型旋網、小型機船底曳網、機船船曳網、刺網、一本釣りなどの沿岸漁業に従事し、年間4万ト

ン程度の水揚げをしています。漁獲物の大半はイワシ類とシラスイワシです。大阪府では全国的に高度経済成長時代に漁業が沿岸から沖合へ、さらに沖合から遠洋へと外延的に発展した時期に、堺・泉北臨海工業地帯などの大規模な埋め立てが行われました。大阪湾の臨海部では重化学工業の進展とは反対に漁場は喪失し、さらに世紀のビッグプロジェクトとして関西国際空港の建設が進んでいます。これがまた、大阪府漁業を大きく変える節目になることは間違いありません。大阪府の漁業の歴史は非常に古く、古代から資源に恵まれた海で、優れた漁法を生み出し、その先進的漁法を他府県に伝えた歴史を持っています。近く空港開港というこの時期に、輝かしい漁業の歴史をヒモ解き、大阪府漁業の足跡を再認識しようということになりました。

昨年夏から編さん準備会を組織して、編さんの目的、編さん事業の推進体制、編さん集要綱等を検討してきました。そして、6月に編さん事業の推進母体である大阪府漁業史編さん協議会が発足し、編集委員が決まり、いよいよ編さん活動がスタートしました。

編集委員には12名中7名が、執筆予定者は約50名のうち3分の2が漁業経済学会の会員ですし、この他にも資料・史料の収集においてご協力いただく学会

員の方も多数います。このように大阪府漁業史の編さん事業が、漁業経済学会が総力を挙げての活動になることを大変うれしく思っています。40歳となった学会のもう一つの金字塔にしてください。

大阪府には漁業の沿革史がなく、また、漁業史に関する研究も少ないので苦労しています。参考資料も少ない上に、平成5年度が調査・資料収集、平成6年度が執筆という限られた期間での編さんは非常に困難なことです。ご協力いただける学会員の皆様にはよろしく願いいたします。

学会員の皆様で、大阪府漁業史に役立つような資料・史料を所有しておられる方、または所在をご存じの方は是非とも下記にご連絡をお願いいたします。

〒540 大阪市中央区大手前
大阪府農林水産部内
大阪府漁業史編さん協議会事務局
編集主幹 相沢 昂

TEL 06-941-9457

FAX 06-944-6757

第40回漁業経済学会大会報告

5月29日(土)～30日(日)の両日、東京水産大学において第40回漁業経済学会大会が開催された。第1日は15題の一般報告と40周年記念講演、40周年記念祝賀会が行われた。第2日のシンポジウムは『漁村労働力の存在形態—過剰人口論の検討—』のテーマで実施され、両日とも多数の参加者を得て活発な討論がなされた。大会プログラムは以下の通りである。

<一般報告>

A会場

- A-1. OECD加盟国における水産業の経済的助成について
中央水研 中西 孝
- A-2. 日米漁業摩擦の起源—ブリストル湾でのサケ資源調査—
東水大院 小野寺五典
- A-3. 産地における水産加工業の構造再編の特徴—石巻の事例を中心に—
東水大院 張 瑛秀
- A-4. 地域漁業史研究の現状と課題

- 島根大農 伊藤康宏
- A-5. ホタテガイ養殖業の発展と限界について－噴火
湾・豊浦町のホタテガイ養殖業を例にして－
中央水研 三木克弘
- A-6. 近年のノリの需給とノリ養殖
長崎大水 片岡千賀之
- A-7. 鰺養殖業の経営分析
農林中金総研 大塚秀雄
- B会場
- B-1. ゲーム理論的解析に基づく操業における一考察
東水大院 本多 剛
- B-2. ミックス財としての鯨資源管理－基礎理論の検
討－
中央水研 黒沼吉弘
- B-3. 琵琶湖コアユ漁業における漁獲方法について
東水大院 鈴木直樹
- B-4. 福島県北部海域における固定式刺網漁業の操
業形態について
東水大院 山口由二
- B-5. 漁業権と生存権－長良川河口堰建設と南松ヶ島
漁協の対応－
東水大 水口憲哉
- B-6. 漁協所有地と漁協合併に関する法社会学的考察
－伊東市川奈漁協を事例として－
中央水研 田中克哲
- B-7. 老岐島海女の技能と漁場利用－漁業構造におけ
る女性就業の一考察－
東水大院 三木奈都子
- B-8. ソロモン諸島・カツオ漁業の現地化に関する現
状分析－ソロモン・タイヨーにおける漁業経営
と漁業生産の立場から－
松山東雲女子大 若林良和

〈シンポジウム〉

テーマ：漁村労働力の存在形態

－過剰人口論の再検討－

コーディネーター：早稲田大 堀口健治

報告：

- 1, 漁村労働力の存在形態に関する諸問題
秋山博一
- 2, 自営漁業者の存在形態－階層格差とその根拠－
東大社研 加瀬和俊
- 3, 若年漁村就業者の漁業就業選択
鹿児島大 島 秀典
- 4, 漁民層分解と就業構造
三重大学 長谷川健二
- 5, 都市近郊漁村での漁業就業形態
水産大学校 三輪千年

コメンテーター：近畿大 倉田 亨

北大教育 宮崎隆志

司会： 秋山博一

八戸大学 服部 昭

〈漁業経済学会創立40周年記念講演会〉

テーマ：漁業経済研究の課題と展望

- 1, 漁業経済学の課題－自然諸力とその評価－
慶応義塾大 高山隆三
- 2, 80年代の経済転換と漁業再編
広島県立大学 志村賢男
- 3, 漁業の将来について
元長崎大 八木庸夫

〈総会議事〉

議長に酒井亮介氏を選出し、鈴木旭代表理事の挨拶の
後、下記の議事について審議した。

- 1, 1992年度事業報告
1992年度活動報告、会誌発行、短信発行等。
- 2, 1992年度会計決算報告、監査報告（資料1参照）。
- 3, 1993年度事業計画案

学会誌編集計画（4号発行の計画等）、短信編集計画方針、等が審議、了承された。また次回の第41回大会開催予定地は奈良（近畿大）となった。シンポジウムテーマについては在京理事会に一任ということで了承された。

4, 1993年度予算案（資料2参照）

会費未納者に対するさらなる督促や一般・賛助会員拡大に努力することとなった。

5, 学会賞選考委員会報告及び学会賞授与

・学会賞 該当者なし。

・学会奨励賞

○馬場 治

1) 受賞対象業績：「漁業管理に関する研究」

2) 論文：「駿河湾サクラエビ漁業におけるプール制管理の経済効果」『漁業経済研究』34巻3号, 1990, 2

「漁業管理下での生産組織と分配の再編－低豊度漁場におけるプール制管理の事例－」『漁業経済研究』37巻2号, 1992, 9

○伊藤康宏

1) 受賞対象業績：「地域漁業史に関する研究」

2) 著書：『地域漁業史の研究－海洋資源の利用と管理－』, 農文教, 1992, 8

論文：「村落構造の変化とブリ台網漁業経営の展開過程」『漁業経済研究』28巻3号, 1983,

6, 新役員の選出

新役員は下記の通り。（順不動、敬称略）

理事：

松田恵明、浦城晋一、○長谷川健二、高山隆三、○田中克哲、柿本典昭、倉田亨、大海原宏、○三輪千年、小野征一郎、○榎彰徳、志村賢男、八木庸夫、○三木克弘、鈴木旭、増田洋、大島譲二、加瀬和俊、中井裕、○島秀英、堀口健治、中橋興、○濱田英嗣、大崎晃、○片岡千賀之、○馬場治、池田均、○服部昭、○増井好男、○田坂行男、○多屋勝雄、○古林英一、廣吉勝治、○宮沢晴彦、秋谷重男、○佐野雅昭

（○は常任理事）

監事：

赤井雄次、米田一二三

第一回理事会（新理事）において秋谷重男氏を代表理事に選出した。

7, 学会賞選考委員の選出

浦城、増田、片岡、中井の4氏を改選し、堀口、大海原、廣吉、小野の各氏を選出した。長谷川彰、秋谷氏は留任となっていたが、秋谷氏が代表理事に選出されたため、加瀬氏が補充・選出された。

在京理事会報告

1, 学会誌編集計画について

昨年同様、企画特集号を含め、年4回の発刊を予定している。編集委員の地方在住者を積極的に活用するため、特に近畿・中部在住者については年何回かは編集会議に出席させたい旨発言があり、この方向で進める（必要最小限の交通費等の支給）ことが承認された。

2, 短信

昨年同様年3回の発刊を予定しているが、会員相互

の情報交換場として積極的に短信を活用すべく、「会員動向」項目を短信内に設けることが承認された。

3, 次期シンポジウムテーマについて

活発な議論が行われたが、テーマや報告者等なお最終決定するに到っていない。次回在京理事会で最終決定にこぎつけるべく代表理事、事務局を軸に調整することとなった。

4, 40周年記念事業

次期50周年記念事業を念頭において、印象の新しいうちに40周年記念事業のいい意味での反省点、改善点を話し合った。「準備不足」、「30周年記念事業の踏襲であった」という意見が出されたように、全体として40周年記念事業とは何か、明確な目的が明示されなかったという反省がなされた。50周年事業では記念撮影の実施や、ジャンル別総括（ビブリオを含めた）を目指したらどうか、という意見が出された。

5, その他

日本農学賞の推薦候補の締切が11月15日となっているので、自薦・他薦を含めて会員から積極的に意見を求めることとなった。該当者がいれば事務局までご連絡下さい。

事務局からのお知らせ

◆新入会員の紹介

下記の方々から入会の申込があり、在京理事会で入会が承認されましたのでお知らせいたします。

- ・北窓時男（桃井製網）
 - ・柏谷義信（北海道水産部）
 - ・小坂 淳（南西海区水研高知庁舎）
- 【賛助会員】
- ・寶洋水産（株）

◆水産学研連シンポジウムについて

8月27日、日本学術会議講堂において日本学術会議シンポジウム「海の生態系と生物資源—環境との調和をめざして—」が開催され、漁業経済学会も共催しました。報告者、報告課題及び田の共催団体は下記の通り。

「海の生態系とは何か」

東北大農 谷口 旭

「海的环境と生物資源の変動」

東大海洋研 杉本隆成

「環境収容力—サケを例として」

北里大水 井田 斉

「マグロは絶滅するか」

遠洋水研 鈴木治郎

「サメは保護されるべきか」

東大農 谷内 透

「マイワシに替わる魚種」

中央水研 渡辺良朗

他の共催団体：

日本水産学会、水産海洋学会、日仏海洋学会、日本魚類学会、日本プランクトン学会、日本海洋学会、日本魚病学会、日本増殖学会、日本水産工学会

学会 短 信	N 0. 7 0
1 9 9 3. 9	
事 務 局	
〒 1 0 8	東 京 都 港 区 港 南 4 - 5 - 7
	東 京 水 産 大 学 内
電 話	0 3 (3 4 7 1) 1 2 5 1

資料 1, 【1992年度決算報告(1992.4~1993.3)】

1. 収入の部

2. 支出の部

科目	予算	決算	予-決	科目	予算	決算	予-決
会費	1,500,000	1,365,000	135,000	会誌印刷費	2,100,000	2,818,595	-718,595
カンパ	200,000	274,200	-74,200	通信発送費	200,000	161,950	38,050
会誌売上	300,000	439,960	-139,960	事務局費	70,000	64,695	5,305
大会収入	270,000	442,000	-172,000	会議費	200,000	322,921	-122,921
寄付金	600,000	1,205,463	-605,463	大会経費	300,000	501,441	-201,441
雑収入	20,000	24,836	-4,836	負担金	43,000	42,900	100
				雑費	10,000	17,272	-7,272
				40周年記念 事業特別会 計引当金	200,000	200,000	0
小計	2,890,000	3,751,459	-861,459	小計	3,123,000	4,129,774	-1,006,774
前期繰越金	1,259,041	1,259,041	0	繰越金	1,026,041	880,726	145,315
合計	4,149,041	5,010,500	-861,459	合計	4,149,041	5,010,500	-861,459

3. 財産目録（一般会計）

郵便貯金	9,936
銀行預金	3,878
現金	866,912
合計	880,726

4. 財産目録（特別会計）

郵便貯金	750,000
計	750,000

資料 2, 【1993年度予算(1993.4~1994.3)】

1. 収入の部

2. 支出の部

科目	予算
会費	1,500,000
カンパ	200,000
会誌売上	350,000
大会収入	160,000
寄付金	600,000
雑収入	20,000
小計	2,830,000
前期繰越金	880,726
合計	3,710,726

科目	予算
会誌印刷費	2,500,000
通信発送費	200,000
事務局費	70,000
会議費	200,000
大会経費	160,000
負担金	43,000
雑費	10,000
小計	3,183,000
繰越金	527,726
合計	3,710,726